

### 施策3

恵まれた自然を活かして快適生活環境をつくる

## 安心ある村を目指す

### 自然環境の保全と活用

近年注目されている太陽光や風力発電など自然エネルギーの活用施策にも引き続き取り組みたいと考えております。

また、黒崎前浜、ネダリ浜から北山崎までの「遊歩百選」認定コース、「日本の灯台50選」認定の黒埼灯台、黒崎展望台から一望できる「黒崎のヤマセ景観」認定の絶景や普代浜、義経ゆかりの鶺鴒神社、緑の村観光牧場などをセールスポイントとして、今後の観光イベントへの活用を引き続き考えてまいります。

### 防災機能の確立

近い将来、高い確率で宮城県沖地震などの大地震が発生するという調査結果が出ており、村においても災害が発生した場合、その状況に応じて対策を講じることとなります。

しかし、大規模災害では行政機関だけでは対応には限界があります。阪神・淡路大震災では地域住民が協力し合って、初期消火や救助を行い多数の人命を救いました。

このように一人ひとりが「自分の命、地域は自分たちで守る」という意識の下に行動することが防災体制の強化で必要になります。

こうした視点から自助・共助・公助、それぞれの役割を見直し、地域住民の防災教育や自主防災組織などの育成、強化を図り、行政や地域が一体となって地域防災力の向上に努めます。

### 道路網の整備

主要都市への幹線道路の早急な整備の必要性を国、県などに働きかけ、また、村内生活道の整備を計画的に進めてまいります。



普代バイパスの橋脚工事が進む太田名部橋付近

国道45号普代バイパス工事は北側から2キロメートル区間を平成18年度の供用開始を目標に進めていたが、

いておりましたが、諸事情により予定どおりの供用開始ができなくなったと聞いております。一日も早い供用開始に向け努力する考えでおります。今後、残る2キロメートル区間も合わせ、関係者各位のご協力を呼び掛けてまいります。また、市街地直角路の改良も数年かかりましたが、局所的整備が実現しました。県道の防災工事では黒崎・太田名部地区内の防災工事、芦渡地区内の改良工事が引き続き実施される予定です。

### 居住環境の充実

待望久しい早坂トンネルの供用開始も年内に、また、前後の取付道路の工事も順調に進められ、県都盛岡市までの90分構想実現も目前で大きな期待が寄せられております。

このことは本村産業経済の振興、広範な交流連携促進など村勢発展に資することが多大であり、この波及効果を有益に活用する取り組みを引き続き進めてまいります。

快適な居住環境の実現に向けて、普代地区市街地の下水道工事や合併浄化槽設置を促進するとともに漁業集落排水施設等汚水処理の一体的かつ効果的な整備に取り組みます。

また、若者や子育て世代の定住を進めるため、宅地の供給や身近な公園整備などが求められ

ており、引き続き対策に取り組んでまいります。

### 保健医療福祉の充実

健やかで安心できる暮らしを実現するためには保健、医療、福祉の一体的な取り組みが必要です。保健面では保健センターの機能を生かし、指導体制を強化するとともに、医療面では医科・歯科両診療所の活動に期待を寄せ、福祉面では、うねとり荘を中心に高齢者の支援をいただきます。

村として早くから力を入れている、子育て支援につきましては、子育て支援室を継続し、児童館との連携を密に、村民のボランティア活動の呼び掛けなどを進め、支援体制の整備に取り組み考えております。

なお、救急体制も普代分局に高規格救急自動車が配備されたことにより、救急救命士2名が配置され、県立久慈病院や各医療機関への搬送もより充実され、村民が安心して暮らせる条件も整ってきたものと考えております。